

新潟の未来をSaGaSuプロジェクト

目的

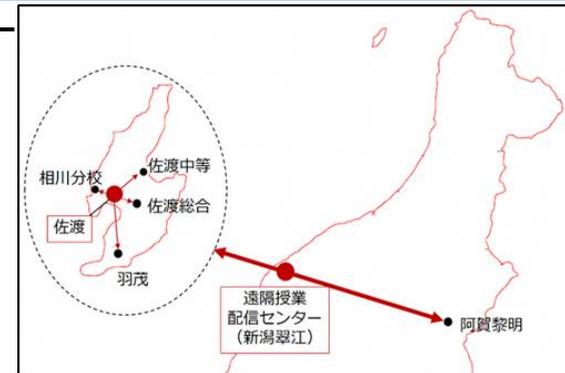
- Sado(佐渡)**と**Aga(阿賀)**と**Suikou(新潟翠江)**のネットワーク7校の取組で、新潟の高校教育の未来を拓く
- 遠隔授業をとおして、生徒のニーズに応じた多様な教科・科目の開設を行い、離島・中山間地域の教育環境の充実を図る。
 - 佐渡市、阿賀町両自治体が推進するキャリア教育を基盤として、地域と一体となって有為な地域人材を育成する。

現状

- 本県の人口減少と少子化の急速な進行
 - ・ 若者を中心として社会減少数が全国平均以上
 - ・ 都市部と離島・中山間地域との間の人口偏在（医師の地域偏在を表す指標で全国最下位）
 - ・ 佐渡市・阿賀町の中卒者数は20年前に比べ約半減
- 通学範囲の広さと通学手段の不便さ
 - ・ 離島である佐渡市は、東京23区の約1.4倍の面積に県立高等学校等が5校点在
 - ・ 福島県境にある阿賀町は、県内有数の豪雪地域で、町に唯一ある高等学校以外への通学には30km以上の距離
- 県立高等学校等の小規模化の進行
 - ・ 本県の全日制及び定時制課程県立高等学校・中等教育学校89校のうち44%が1～3学級（令和4年度募集）

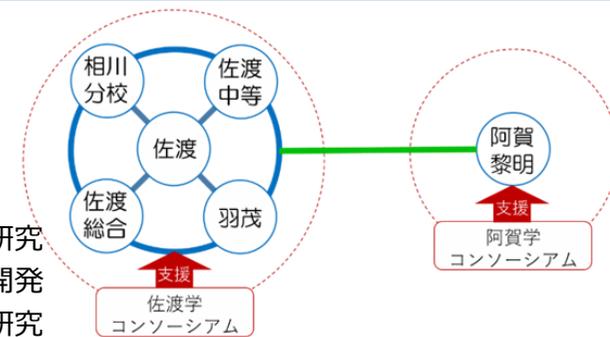
1. 遠隔授業に関する取組の概要

- **新潟市内に立地する新潟翠江高等学校に遠隔授業配信センターを設置し、授業及び補習等を配信**
 - 理科、地理歴史・公民、芸術等の専門教員による授業
 - 国語、数学、英語の習熟度別に対応した授業
 - 大学進学や検定対策など、生徒のニーズに応じた各種補習
- **新潟の魅力や最先端技術を踏まえた授業配信**
 - 本県の地形的・地質的特徴を学ぶ「地学基礎」を教育課程で共通化
 - VRや専門人材の活用を踏まえた「福祉」科目の授業



2. 地元自治体等の関係機関と連携・協働する体制の構築に関する取組の概要

- **佐渡学コンソーシアムと阿賀学コンソーシアムの構築**
 - 共通理念は、生徒を「主語」に、大人も「ワクワク」
 - 地域資源の活用や、SDGsを踏まえた「探究的な学び」の充実
- **コンソーシアム内外の学校間連携の推進**
 - 佐渡島内5校による、佐渡の魅力の情報発信
 - 異なった環境に立地する「地域探究コース」同士の交流、共同研究
例：佐渡・阿賀の魅力を知る観光周遊ルートや体験型メニュー開発；離島・中山間地域が自給できるクリーンエネルギーの調査研究



3. ネットワークを構成する学校

- 新潟県立佐渡高等学校(全日制、普通科)
- 新潟県立佐渡高等学校相川分校(定時制、普通科)
- 新潟県立羽茂高等学校(全日制、普通科)
- 新潟県立佐渡総合高等学校(全日制、総合学科)
- 新潟県立佐渡中等教育学校(普通科)
- 新潟県立阿賀黎明高等学校(全日制、普通科)
- 新潟県立新潟翠江高等学校(定時制・通信制、普通科)

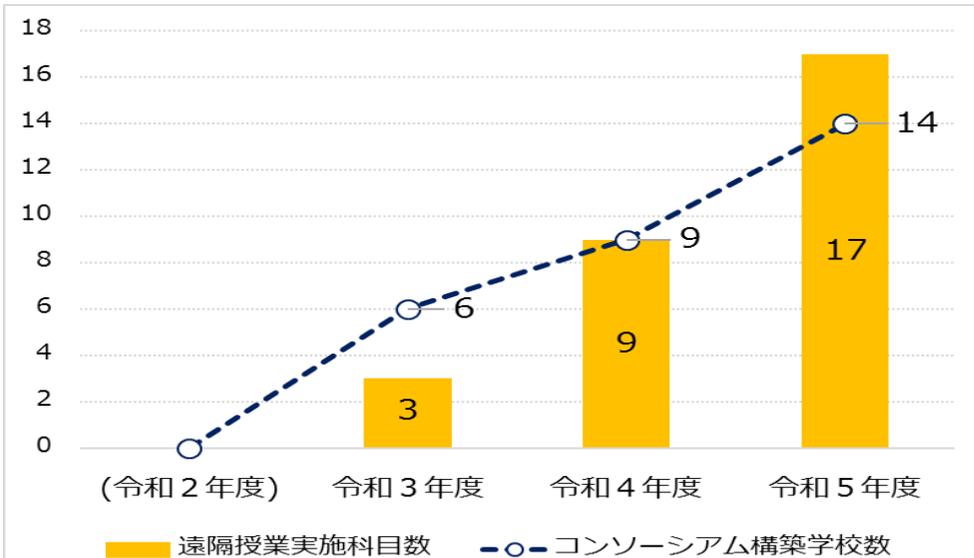
新潟の未来をS a G a S uプロジェクト

育成を目指す資質・能力

- 専門教員による遠隔授業により、教科・科目における専門的な知識の理解と活用力を育成
- ICTを活用した「協働的な学び」と「個別最適な学び」の実施により、深い思考力と豊かな表現力を育成
- 地元の佐渡市や阿賀町へ愛着や誇りを抱き、主体的に社会参画・地域貢献を行う態度を醸成
- 地域と地球規模の課題を関連付け、自己のキャリア形成に活かそうとする態度、新潟の未来を創造しようとする態度を醸成

主なアウトプット(活動目標)

- ネットワーク構成校における遠隔授業の実施科目数の増加
- 地元自治体等とコンソーシアムを構築する学校数の増加



主なアウトカム(成果目標)

- 遠隔授業や地域と連携・協働した探究学習によって、「学習意欲の向上につながった」と回答した生徒の割合

令和3年度：50%以上 令和4年度：60%以上
令和5年度：70%以上

- 県の高校生意識調査における「学校の指導が進路実現が役に立つ」と回答した生徒の割合（高校2年生・中等教育学校5年生対象）

令和2年度県内平均値
68.4%と比較して、

ネットワーク構成校※は、
令和3年度：+5ポイント
令和4年度：+8ポイント
令和5年度：+10ポイント

※遠隔授業配信センターとなる新潟翠江高校の数値は除く。

委託期間終了後の見通し

- 県事業への接続と高等学校等の再編整備計画への反映
⇒ 遠隔授業の対象校拡大や、地域と連携した魅力ある学校づくりの一層の推進
- 本事業のコンソーシアムモデルをもとに、県内他地域への新たなコンソーシアム構築に向けた支援